

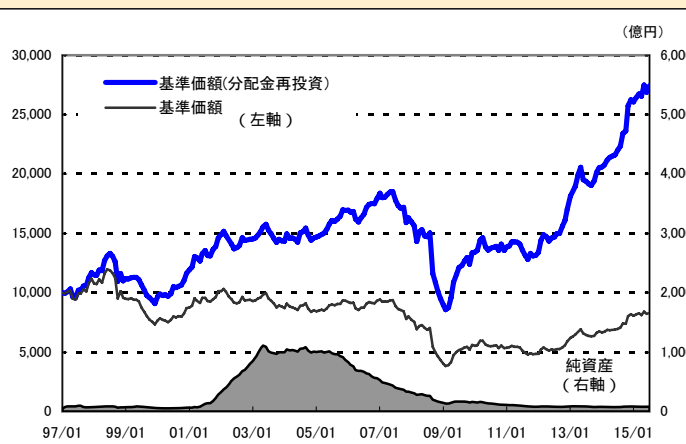


運用実績

2015年7月31日 現在

運用実績の推移

(設定日前日=10,000として指数化:月次)



・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

基準価額※ 8,311円

※分配金控除後

純資産総額 80.6億円

- 信託設定日 1997年1月31日
- 信託期間 2017年1月20日まで
- 決算日 原則1月、4月、7月、10月の各20日  
(同日が休業日の場合は翌営業日)

騰落率	
期間	ファンド
1ヵ月	2.1%
3ヵ月	3.4%
6ヵ月	5.3%
1年	24.6%
3年	86.8%

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に選った期間としております。

分配金(1万口当たり、課税前)の推移	
2015年7月	85円
2015年4月	85円
2015年1月	85円
2014年10月	85円
2014年7月	85円

設定来 174.4%

設定来累計 9,433円

設定来=1997年1月31日以降

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目録見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

資産内容

2015年7月31日 現在

種別配分	
資産	純資産比
国債	0.0%
社債	0.0%
優先証券計	94.1%
25ドル額面(※)	39.5%
1,000ドル額面	54.5%
その他の資産	5.9%
合計	100.0%

実質外貨比率 99.0%  
※50ドル額面優先証券を含みます。  
・実質外貨比率は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

格付別配分	
格付	純資産比
AAA	0.0%
AA	0.0%
A	17.4%
BBB	71.6%
BB以下	5.1%
その他の資産	5.9%
合計	100.0%

格付はS&P社あるいはムーディーズ社のいずれかの格付機関の低い方の格付によります。

ポートフォリオ特性値	
平均格付	BBB
平均クーポン	6.2%
平均直利	5.7%
平均最終利回り	3.1%
平均デュレーション	5.5年

・上記のポートフォリオ特性値は、ファンドの組入債券等(現金を含む)の各特性値(クーポンレート、直利、最終利回り、デュレーション)を、その組入比率で加重平均したものの(現地通貨建)。また格付の場合は、現金等を除く債券部分について、ランク毎に数値化したものを加重平均しています。  
・デュレーション:金利がある一定割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化するかを示す割合。  
・平均格付とは、基準日時点で投資信託財産が保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付ではありません。

組入上位10銘柄

2015年7月31日 現在

銘柄	種別	純資産比
CENTAUR FUNDING (CNTAUR) 9.08 4/21/20	優先証券(1,000ドル額面)	4.6%
BNSF FUNDING TRUST I	優先証券(1,000ドル額面)	4.3%
METLIFE CAPITAL TRUST X	優先証券(1,000ドル額面)	4.3%
NATIONWIDE FINANCIAL SER	優先証券(1,000ドル額面)	3.2%
HSBC HLDGS PLC 8% SERIES - PREF	優先証券(25ドル額面)	3.2%
ELECTRICITE DE FRANCE SA	優先証券(1,000ドル額面)	3.2%
FIRST UNION CAPITAL II	優先証券(1,000ドル額面)	3.1%
AFLAC INC(AFL) 5.5000% 9/15/52 Series	優先証券(25ドル額面)	3.0%
AEGON NV (AEGON) 6.3750 SERIES	優先証券(25ドル額面)	3.0%
TORCHMARKCORP(TMK)5.8750%12/15/52 Series	優先証券(25ドル額面)	2.9%
合計		34.8%

組入銘柄数: 63銘柄

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてはご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆お申込みは

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
一般社団法人投資信託協会会員  
一般社団法人日本投資顧問業協会会員



ファンドの特色

- 信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。
- 米国のハイブリッド優先証券を主要投資対象とします。  
※ハイブリッド優先証券への投資にあたっては、金融商品取引所に上場されているなど流動性のあるものに投資します。

■ハイブリッド優先証券の特色について■

ファンドが主要投資対象とするハイブリッド優先証券(Hybrid Preferred Securities)は、1990年代初頭より米国において発展してきた有価証券です。(わが国においては、株券または社債券の性質を有する有価証券、あるいは証券化関連商品として扱われています。)  
ハイブリッド優先証券は、株式と社債の特色を併せ持つユニークな商品であり、個人を中心とした利回り指向の投資家のニーズと発行体にとっての低コストの資金調達ニーズや財務上のニーズを合致させた魅力ある商品として市場が拡大してきました。  
ハイブリッド優先証券には、企業が直接発行する形態のものや、企業が実質的に発行体となって特別なくみ(特別目的発行主体)を経由して発行するもの(実質発行体)など、さまざまな形態があります。  
従来の優先株式との大きな違いは、企業にとっての資金調達コストの取扱いが現状の米国税制の下では税務上発行企業にとって有利である——「株式配当」としてではなく「債券の利払い」と同様の扱いを受けられる(税引前利益から引き落とすことができる。)ことにあります。つまり税務上は債券に近いといえます。  
一方、企業にとっての財務上の観点からは償還までの期間が十分に長期であることや、利息/配当の支払いが繰り延べられることなどから、格付会社などからはより資本(株式)に近いと認識されており、また弁済順位上は株式と社債の中間に位置します。  
投資家にとっては、高水準の利息(配当)を提供する商品です。

- 高水準の利息(配当)収入の獲得(米国ドルベース)を目指し、積極的に運用します。
- ハイブリッド優先証券の選定にあたっては、個別銘柄の利回り、バリュエーション、格付や発行体の信用状況、流動性、発行条件や償還条件などの各種分析に基づき、割安と思われる銘柄に投資することを基本とします。なお、銘柄間の割高割安の判断等によって、適宜、組入銘柄の見直しを行ないアクティブに運用を行ないます。  
※組入れたハイブリッド優先証券の価格変動リスクを回避するため、債券先物取引、債券先物オプション取引、金利に係る先物取引および金利に係るオプション取引を行なう場合があります。
- ハイブリッド優先証券への投資割合は、原則として高位としますが、社債との利回り格差等市況動向によっては米国社債または財務省証券を組み入れる場合もあります。  
※投資環境によっては防衛的な観点から運用者の判断で主要投資対象への投資を大幅に縮小する場合があります。
- 特定の銘柄・業種への集中を避け、分散投資を行ないます。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。
- 運用にあたっては、スペクトラム・アセット・マネジメント・インクに、運用の指図に関する権限の一部を委託します。
- 原則、毎年1月、4月、7月および10月の20日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。  
分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。  
\* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。  
資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

ファンドは、ハイブリッド優先証券等を投資対象としますので、金利変動や企業業績の変化等による組入ハイブリッド優先証券の価格下落や、組入ハイブリッド優先証券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。  
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。  
※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 平成29年1月20日まで(平成9年1月31日設定)
- 決算日および収益分配 年4回の決算時(原則1月、4月、7月および10月の20日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌営業日の基準価額
- ご購入単位 一般コース:1万円以上1万円単位(当初元本1口=1円)  
または1万円以上1円単位  
自動かけぞく投資コース:1万円以上1円単位  
※お取扱いコース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

◆ご購入時手数料	ご購入価額に1.08%(税抜1.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.2852%(税抜年1.19%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時)	1万円につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額 上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等にに応じて異なりますので、表示することができません。 ※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

＜分配金に関する留意点＞

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上りが小さかった場合も同様です。

ファンドの販売会社、基準価額等については、下記の照会先までお問い合わせください。  
**野村アセットマネジメント株式会社**  
★サポートダイヤル★ 0120-753104(フリーダイヤル)  
＜受付時間＞営業日の午前9時～午後5時  
★インターネットホームページ★ <http://www.nomura-am.co.jp/>

＜委託会社＞ **野村アセットマネジメント株式会社**  
[ファンドの運用の指図を行なう者]  
＜受託会社＞ **三菱UFJ信託銀行株式会社**  
[ファンドの財産の保管および管理を行なう者]

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様にご帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてはご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆お申込みは

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
一般社団法人投資信託協会会員  
一般社団法人日本投資顧問業協会会員



先月の投資環境

○米国10年国債利回りは低下(価格は上昇)しました。月初、6月の非農業部門雇用者数や平均時給の伸びが市場予想を下回ったことなどを背景として、債券利回りは低下しました。その後、FRB(米連邦準備制度理事会)のイエレン議長が講演で、年内の利上げを示唆したことなどから利回りが上昇(価格は下落)する局面もありましたが、月末にかけては原油安などを背景に利回りは低下し、月間でも低下しました。

○ハイブリッド優先証券(以下、優先証券)市場: 25ドル額面および1,000ドル額面優先証券市場は、ギリシャが国民投票で財政緊縮策を拒否したことを受け、同国のユーロ離脱懸念が高まったことなどから投資家のリスク回避姿勢が高まり、下落する局面があったものの、その後、ギリシャがEU(欧州連合)と金融支援の再開で基本合意に達したことなどから上昇し、月間では上昇しました。

○ドル・円相場は、月間でドル高・円安となりました。月初、ギリシャの国民投票で財政緊縮策に対する反対派が勝利したことで、同国の債務問題の先行き不透明感が高まったことに加えて、中国株の急落を受け、リスク回避姿勢が高まり、安全資産とされる円が買われました。その後は、ギリシャ金融支援策が合意されたことや中国株式市場が沈静化したことを受け、ドルは円に対して上昇し、月間ではドル高・円安となりました。

先月の運用経過

(運用実績、分配金は、課税前の数値で表示しております。)

○月末の基準価額は8,311円となり、前月末比171円の上昇(分配金込み)となりました。主な要因は

保有証券の価格変動によるもの	46円	為替変動によるもの	106円	
利息/配当収入によるもの	26円	信託報酬等	-7円	でした。

今後の運用方針 (2015年7月31日 現在)

(以下の内容は当資料作成日時時点のものであり、予告なく変更する場合があります。)

○運用方針は次の通りです。

1. 優先証券中心の投資を継続し、安定した利息・配当収入を獲得することを目指します。
2. 1,000ドル額面と25ドル額面の優先証券比率については市場動向に応じて変化させます。  
社債との利回り格差等の市況動向によっては、社債または財務省証券を組み入れる場合もあります。
3. 業種別配分は、特定の銘柄・業種への集中を避け、分散投資を行いません。  
業種内の銘柄選択については、業務内容、財務状況などを考慮し、安定的な業績が見込まれる銘柄に分散投資します。
4. 優先証券および公社債の組入比率は、格付けの高い銘柄を中心に高位に保ち、信用リスクを抑えてまいります。  
相対的に高格付けでありながら割安に放置されている銘柄を探し、高利回りを維持しながら、安定したポートフォリオの構築を目指します。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。